

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のわらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
はるがきた	2	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの話に関心をもつことができる。 ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。 ○絵を見て話したり応答したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで友達の話に関心を持ち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
おはなし聞きたいな	2	<ul style="list-style-type: none"> ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 ○読み聞かせを聞いて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。
なんて いおうかな	2	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 ○丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気をつけて使うことができる。 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。 ○場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気をつけて使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。
かくこと たのしいな	1	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名を読み、書くことができる。 ○姿勢や筆記具の持ち方を正しく書くことができる。 ○正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名を読み、書いている。 ○姿勢や筆記具の持ち方を正しく書いている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。
どうぞ よろしく	3	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。 ○丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気をつけて使うことができる。 ○名前カードを使って友達と交 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気をつけて使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ○「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
こんな もの みつけたよ	2	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 ○丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気をつけて使うことができる。 ○見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気をつけて使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。
うたに あわせて あいうえお	2	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。 ○音読する。 ○正しい筆順で文字を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。
こえに だして よもう	1	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○詩を音読する。 ○想像を広げながら詩を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。

よくきいて、はなそう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。 ■応答したり、感想を伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味をもって進んで友達の話の聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。
ことばを さがそう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○音節と文字との関係に気づくことができる。 ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 ○言葉集めをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音節と文字との関係に気づいている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 ○語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。
はなの みち	6	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。 ○想像を広げながら物語を読む。 ○物語の音読をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○敬体で書かれた文章に慣れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。
としょかんへ いこう	4	<ul style="list-style-type: none"> ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 ○学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。
かきと かぎ	2	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名を読み、書くことができる。 ○語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名を読み、書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。
ぶんをつくろう	4	<ul style="list-style-type: none"> ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。 ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意することができる。 ○主語と述語を意識して文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○句点の打ち方を理解して文の中で使っている。 ○文の中における主語と述語との関係に気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
ねこと ねっこ	2	<ul style="list-style-type: none"> ○促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意することができる。 ○促音や濁音のある言葉を使って文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
わけを はなそう	4	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 ○自分の考えとそのわけを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。

おばさんと おばあさん	2	○長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意することができる。 ○長音のある言葉を使って文を書く。	○長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。	○進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
あいうえおで あそぼう	3	○平仮名を読み、書くことができる。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。 ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。 ○言葉遊び歌を楽しむ。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。 ○平仮名を読み、書いている。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。		○進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
つぼみ	8	○事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 ○文章を読んで分かったことや考えたことを書く。	○文の中における主語と述語との関係に気づいている。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	○「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	○積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。
おもちゃと おもちゃ	2	○拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意することができる。 ○拗音のある言葉を使って文を書く	○拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。	○進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
おおきく なった	4	○観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。 ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。 ○観察したことを記録する文を書く。	○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。	○「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。	○植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。
おおきな かぶ	10	○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 ○物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。	○文の中における主語と述語との関係に気づいている。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	○積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
はを へを つかおう	3	○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 ○助詞「は」「へ」を使って文を書く。	○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	○進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
すきな こと、なかに	7	◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	○言葉には、事物の内容を表す動きや、経験したことを伝える動きがあることに気づいている。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。	○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。 ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かる	○粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとの理由を紹介しようとしている。

おむすび ころりん	5 ○昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○昔話を音読したり演じたりする。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 ○昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
こんな ことが あったよ	6 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つげることができる。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。 ○出来事や経験を報告する文章を書く。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。	○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。	○積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。
としゃかんと なかよし	4 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 ○図書館に行き、好きな本を選んで読書に親しむ。	○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。		○積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選ぼうとしている。
こえを あわせて よもう	2 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○詩を音読する。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
みんなに しらせよう	2 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。 ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 ○知らせたい内容を聞き合う。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	○積極的に友達の話聞き、これまでの学習をいかして質問や感想を述べようとしている。
ことばを みつけよう	2 ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 ○みんなで言葉遊びをする。	○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。		○積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。
やくそく	8 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 ○お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。	○文の中における主語と述語との関係に気づいている。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 (C(1)イ) ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	○進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。

かたかなを みつけよう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。 ○身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。
うみの かくれんぼ	10	<ul style="list-style-type: none"> ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文の中における主語と述語との関係に気づいている。 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。
かずと かんじ	4	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。 ○語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。 ○数え歌を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。
くじらぐも	10	<ul style="list-style-type: none"> ○かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○読んで想像したことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
まちがいを なおそう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを直すことができる。 ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。 ○正しい表記で文章を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。
しらせたいな、見せたいな	10	<ul style="list-style-type: none"> ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。 ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。 ○見つけたことを記録して伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。 ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。
かん字のはなし	6	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 ○漢字を使った短文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。

ことばを たのしもう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。 ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話することができる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○詩や早口言葉を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。
じどうしゃ くらべ	7	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 ○事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかいたいことを見つけようとしている。
じどう車ずかんをつくろう	7	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 ○「じどう車しょうかいカード」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見直しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。
かたかなを かこう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。 ○片仮名で書く言葉を集め、短文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとしている。
どんな おはなしが できるのかな	6	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。 ○句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 ○友達と話したことを基にして物語を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ○文の中における主語と述語との関係に気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 ○「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 ○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。
たぬきの糸車	10	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 ○物語の好きなどところを見つけ、そのわけを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文の中における主語と述語との関係に気づいている。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなどところそのわけを考えようとしている。
日づけと よう日	3	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。 ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 ○唱え歌を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱え歌を作ろうとしている。

手がみで しらせよう	8	<p>○丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。</p> <p>○文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。</p> <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。</p> <p>○伝えたいことを手紙に書く。</p>	<p>○丁寧な言葉と普通という言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。</p>	<p>○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。</p> <p>○「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。</p>	<p>○書いた文章を積極的に見直しながらか、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。</p>
むかしばなしを よもう	8	<p>○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。</p> <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。</p> <p>○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。</p> <p>○昔話を読み、感想を伝え合う。</p>	<p>○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。</p>	<p>○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。</p>	<p>○積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。</p>
なりきって よもう	2	<p>○場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表〇(1)イ)</p> <p>○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)</p>	<p>○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。</p>	<p>○「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。</p>	<p>○進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。</p>
くわしく きこう	2	<p>○身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。</p> <p>○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。</p> <p>■紹介を聞いて、質疑応答</p>	<p>○身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。</p>	<p>○積極的に友達の話聞き、学習の見通しをもって、質問や感想を述べようとしている。</p>
ことばで あそぼう	2	<p>○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。</p> <p>○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。</p>	<p>○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。</p>	<p>○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。</p>	<p>○積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。</p>
どうぶつの あかちゃん	12	<p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。</p> <p>○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。</p> <p>○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。</p> <p>○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。</p> <p>○書かれていることを比べて読む。</p>	<p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。</p>	<p>○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。</p>	<p>○文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。</p>
ものの 名まえ	6	<p>○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。</p> <p>○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。</p> <p>○尋ねたり、応答したりする。</p>	<p>○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。</p>	<p>○積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。</p>

わらしべちょうじゃ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。 ○文章を読んで感じたことを共有することができる。 ○昔話の読み聞かせを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。
かたかなの かたち	3	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 ○片仮名の言葉を使って文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書くようしている。
ことばあそびをつくろう	6	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。 ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 ■言葉遊びを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句に積極的に関心をもち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
これは、なんでしょう	4	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 ○二人で相談し、考えをまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 ○「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。
ずうっと、ずっと、大すきだよ	12	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 ○読んで感じたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の考えや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。
にて いる かん字	3	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。 ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。 ○似ている漢字を使って文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書くようしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。
いいこと いっぱい、一年生	12	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。 ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 ○経験したことを報告する文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○敬体で書かれた文章に慣れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書くようしている。

令和6年 評価規準

教科	国語	学年	第 2 学年
----	----	----	--------

単元名	時数	単元の到達目標 (小単元のねらい)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
ちいさい お おきい	2	<p>□体を動かしたり、声の大きさを工夫しながら、楽しく読もう。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
つつけて み よう ー日記 ー	4	<p>■毎日の生活を振り返り、日記を書く。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p> <p>☆生活科：観察日記を書く活動に生かすことができる。</p>	長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。	積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
声の ものさ しを つかお う	3	<p>◇いろいろな場面で、話す声の大きさを考えて、気をつけて話すことの大切さに気づく。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p>	音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。	積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習の見通しをもって話そうとしている。

「えいっ」	13	<p>□登場人物の様子を思いうかべながら読み、くまの子になったつもりで音読する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：B感謝 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。</p>	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもっておもしろいところを紹介しようとしている。
ひろい 公園		<p>◇質問を落とさないように聞き、絵から答えを探す。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基ついて、話す事柄の順序を考慮すること。 →思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →◎思判表A(1)エ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 →思判表A(2)イ</p>	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	積極的に自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、学習課題に沿って質問に答えようとしている。

<p>漢字の ひろ ば ① 画と 書き じゅん</p> <p>一年生で 学 んだ 漢字 ①</p>	<p>2</p> <p>4</p>	<p>△漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。</p> <p>△第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。</p> <p>前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。</p>	<p>「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。</p>	<p>積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって正しい筆順で漢字を書こうとしている。</p> <p>積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。</p>
<p>すみれと あ り</p>	<p>15</p>	<p>□ありとの関わりに気をつけながら、すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア</p> <p>☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめる。</p>	<p>共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。</p> <p>「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</p>	<p>進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、内容の大体を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

「言葉あそび」をしよう	2	<p>△平仮名四十七文字を全て使った歌のあることを知り、音読する。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>△長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 ⇒◎知技(3)イ</p>	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。	進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付こうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。
かたかなで書く言葉	3	<p>△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分け。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p>	片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。		積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、今までの学習を生かして文を書こうとしている。
図書館で本をさがそう	2	<p>△図書館に行き、自分が調べたり読んだりしたいテーマの本を探して、読む。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ</p>	読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。	「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の探し方を知ろうとしている。

「生きものクイズ」を作ろう	10	<p>■生き物について知りたいことを調べ、クイズを作る。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒知技(3)エ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎B思判表(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし、学習の見通しをもって「生きものクイズ」を作ろうとしている。
漢字の ひろば ② なかまの 言葉と 漢字	2	<p>△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。</p> <p>△第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p>	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知ろうとしている。

うれしくなる言葉	4	<p>△言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。	積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。
きつねのおきゃくさま	17	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆生活科：身近な生き物などを登場人物にした物語を作り、友達に紹介する。</p> <p>☆道徳：D生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。</p>	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	<p>「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。</p> <p>「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。</p> <p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p>	進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って好きな場面を発表しようとしている。

いなばのろうさぎ	5	<p>△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア</p> <p>☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ、興味をもつ。 ☆道徳：C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。</p>	昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。		進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。
「かんさつ発見カード」を書こう	8	<p>■観察して同じところや違うところを見つけ、「かんさつ発見カード」を書く。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。</p>	文の中における主語と述語との関係に気付いている。】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	粘り強く事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「かんさつ発見カード」を書こうとしている。
「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	2	<p>△言葉が体系性をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりすることができる。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p>	身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。		積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。

話したいな、聞きたいな、夏休みのこと	<p>5</p> <p>◇夏休みの思い出を、順序を考えて話す。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →◎知技(1)イ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 →◎思判表A(1)イ</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア</p>	姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。	進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。
漢字のひろば ③ 二つの漢字でできている言葉	<p>2</p> <p>△二つの漢字でできた言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。</p> <p>△第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ</p>	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。

漢字のひろば ③ 一年生で学んだ漢字 ②	2	<p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	文の中における主語と述語との関係に気付いている。	「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	積極的に文の中における主語と述語の関係に気付こうとし、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。
わにのおじいさんのたからもの	14	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：D感動、畏敬の念 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。</p>	言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	<p>「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。</p> <p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p>	進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って登場人物に手紙を書こうとしている。
はんだいのいみの言葉、にたいみの言葉	2	<p>△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集めることができる。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p>	身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。		積極的に言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。

町の「すてき」をつたえます	11	<p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：生活科科学の報告文を書くときに生かすことができる。</p>	<p>長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。</p>	<p>「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。</p> <p>「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。</p>	<p>積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして報告する文章を書こうとしている。</p>
この間に何があった？	2	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。⇒思判表C(2)ウ</p>	<p>共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。</p> <p>「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。</p> <p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p>	<p>積極的に共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

<p>さげが大きくなるまで</p>	<p>15</p>	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →◎知技(2)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基ついて、話す事柄の順序を考えること。 →思判表A(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 →◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 →思判表C(2)ア ☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめたり、調べたことを発表したりする。</p>	<p>共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基ついて、話す事柄の順序を考えている。 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p>	<p>積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿ってさげが大きくなる様子を説明しようとしている。</p>
<p>おもしろいもの、見つけたよ</p>	<p>10</p>	<p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 →◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表◎B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 →思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったものから選ぶこともできる。</p>	<p>身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。</p>	<p>「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。</p>	<p>進んで文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。</p>

しを読もう てんとうむし 木	2	<p>ロイメーシの自由な広がりをとおして、詩を楽しむ。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 →◎知技(1)オ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ</p>	身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
ないた赤おに	11	<p>□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。</p>	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って心に残ったところを文章にまとめようとしている。
「お話しじゅっかん」を作ろう	5	<p>△自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア</p> <p>△読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 →◎知技(3)エ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →◎思判表C(1)カ</p> <p>□学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 →思判表C(2)ウ</p>	読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。	「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。

「クラスお楽しみ会」をひらこう	8	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考慮すること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。	積極的に互いの話に関心を持ち、今までの学習を生かして少人数で話し合おうとしている。
みじかい言葉で	5	<p>■心が動いたことを短い言葉で書く。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、学習の見通しをもって心が動いたことを短い言葉で書こうとしている。
漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方	2	<p>△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p>	当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。

漢字の広場 ④ 一年生で学んだ漢字 ③	2	<p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)ウ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ</p>	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。
「しかけ絵本」を作ろう	10	<p>□説明の順序に気をつけながら、「しかけ絵本」の仕組みや作り方を書いた文章を読む。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ</p> <p>□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 →◎思判表C(1)ア</p> <p>□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 →◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。 →思判表B(2)ア</p> <p>□事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 →思判表C(2)ア</p> <p>☆生活科・図工：順序に気をつけて作業の手順を説明する文章を書く。</p>	言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、学習課題に沿って「しかけ絵本」を作ろうとしている。

おもちゃのせつめい書を書こう	7	<p>■おもちゃの作り方や遊び方の順序を考えて、説明書を書く。</p> <p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆生活科：題材は生活科で扱ったおもちゃから選ぶこともできる。</p>	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	<p>「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。</p> <p>「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。</p>	粘り強く語と語や文と文との続き方に注意し、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。
しを読もう せかいじゅうの海が	2	<p>□音読をとおして言葉のリズムや響きを楽しむとともに、無限に広がる想像の世界を楽しむ。</p> <p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、学習の見通しをもって想像したことを発表しようとしている。

かさこじぞう	15	<p>△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ</p> <p>△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 →知技(3)ア</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →◎思判表C(1)カ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。</p>	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	<p>「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。</p> <p>「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。</p>	進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。
むかしのあそび	3	<p>△日本に古くから伝承されている昔遊び（正月遊び）を知り、実際に遊ぶことをとおしてその魅力を知る。</p> <p>△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 →知技(3)ア</p> <p>△長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 →◎知技(3)イ</p>	長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。		進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付き、学習の見通しをもってかるたを楽しもうとしている。

むかしのあそびをせつめいしよう	4	<p>◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。</p> <p>△音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒ ◎知技(1)イ</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒ 思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基ついて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒ ◎思判表A(1)イ</p> <p>◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒ 思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒ 思判表A(1)エ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒ 思判表A(2)ア</p>	姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基ついて、話す事柄の順序を考えている。	進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして昔の遊びの遊び方を説明しようとしている。
漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字	2	<p>△同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒ ◎知技(1)エ</p>	当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。		積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。

こんなことが できるように なったよ	13	<p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。</p>	<p>「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。</p> <p>「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。</p>	<p>積極的に、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりし、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。</p>
音や様子をあらわす言葉	3	<p>△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使う。</p> <p>△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解し</p>	<p>身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、言葉には意味による</p>		<p>積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、学習の見通しをもつ</p>
漢字の広場 ⑥ 組み合わせて できている漢 字	2	<p>△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p>	<p>当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。</p>		<p>積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。</p>

漢字の広場 ⑥ 一年生で学んだ漢字 ④	2	<p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ</p> <p>△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ</p> <p>■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 →思判表B(1)エ</p> <p>■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ</p>	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。	積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見直しをもって文を書こうとしている。
アレクサンダーとぜんまいねずみ	18	<p>△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →◎知技(1)ア</p> <p>■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ</p> <p>□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)イ</p> <p>□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →思判表C(1)エ</p> <p>□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →◎思判表C(1)カ</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア</p> <p>□読み聞かせを聞いたり物語などを讀んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。</p>	言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	<p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。</p> <p>「読むこと」において、文章を讀んで感じたことや分かったことを共有している。</p>	進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもち、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。

<p>国語の学習 これまで これから</p>	<p>2</p>	<p>◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。</p> <p>◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →思判表A(1)ア</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →◎思判表A(1)エ</p> <p>■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア</p> <p>■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →思判表B(1)オ</p> <p>◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア</p> <p>■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア</p>		<p>「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。</p>	<p>進んで経験したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。</p>
--------------------------------	----------	---	--	---	--

教科	国語	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
よく聞いて、じこしょうかい	1	○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ) ■自己紹介をする。	相手をみて話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ)	「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。(A(1)エ)	積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。
どきん	1	◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(0)カ) ■詩を楽しんで音読する。	文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)	積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしている。
わたしのさいこうの一日 つづけてみよう	1	○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■日記を書く。	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ)	・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	経験したことや想像したことなどから書くことを選んで選び、学習課題に沿って日記を書くようとしている。
春風をたどって	8	◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ■読んで想像したことを伝え合う。	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ)	進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
図書館たんていだん	1	◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■図書館の地図を作り、本を探す。	読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)		読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。
国語辞典を使おう	2	◎辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ(総合的な学習の時間など)	辞書の使い方を理解し使っている。((2)イ)		進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。
漢字の広場①	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
春のくらし	2	◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■春を感じたことについて、文章に書く。	語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。

もっと知りたい、友だちのこと【コラム】きちんとつたえるために	6	◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ) ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。	相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ)	・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)	粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。
漢字の音と訓	2	◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	3学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ)		進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとしている。
漢字の広場②	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・接続する語句の役割について理解している。((1)カ)	「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
文様 ごまを楽しむ 【じょうほう】全体と中心	8	◎全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ) ■説明する文章を読み、感想を伝え合う。	・段落の役割について理解している。((1)カ) ・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ)	進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。
気持ちをこめて、「来てください」	4	◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ) ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■行事を案内する手紙を書く。	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ)	「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	粘り強く、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整え、学習の見通しをもって行事を案内する手紙を書こうとしている。
漢字の広場③	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
まいごのかぎ	7	◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ■物語を読んで、好きな場面について話し合う。	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。

俳句を楽しもう	1	◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ■俳句を音読する。	易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)		進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読しようとしている。
こそあど言葉を使いこなそう	2	◎指示する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	指示する語句の役割について理解している。(1)カ)		積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。
【じょうほう】引用するとき	3	◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。	引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。(2)イ)	書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。
仕事のくふう、見つけたよ【コラム】符号など	10	◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。(知・技(1)ウ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■調べたことを報告する文章を書く。	・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ) ・段落の役割について理解している。(1)カ)	・「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見直しをもって調べたことを報告する文章を書こうとしている。
夏のくらし	2	◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏を感じたことについて文章に書く。	語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ)	「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
本で知ったことをクイズにしよう 鳥になつたきょうりゅうの話	5	◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ■図鑑や科学読み物を読んで、クイズを出し合う。	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)	「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)	進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。
わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる	2	○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■詩を読んで、思ったことや感じたことを話し合う。	文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったことや感じたことを話し合おうとしている。
こんな係がクラスにほしい	3	◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。(思・判・表A(1)ア) ■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。	考えとそれを支える理由や事例について理解している。(2)ア)	・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)	進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見直しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。

ポスターを読もう	2 ◎文章を読んで理解したことに基 づいて、感想や考えをもつこと ができる。(思・判・表C(1)オ) ○比較や分類のしかたを理解 し使うことができる。(知・技(2) イ) ○目的を意識して、中心となる 語や文 を見つけることができる。(思・ 判・表C(1)ウ) ■ポスターを読み比べて、考え たことを伝え合う。	比較や分類のしかたを理解し 使っている。(2)イ)	・「読むこと」において、目的を 意識して、中心となる語や文を 見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を 読んで理解したことに基 づいて、感想や考えをもっている。 (C(1)オ)	文章を読んで理解したことに基 づいて、進んで感想や考えをも ち、学習課題に沿って考えたこ とを伝え合うようとしている。
書くことを考えるときは	2 ◎比較や分類のしかたを理解 し使うことができる。(知・技(2) イ) ◎相手や目的を意識して、経 験したことや想像したことなど から書くことを選び、集めた材 料を比較したり分類したりして、 伝えたいことを明確にすること ができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏休みの思い出を書く。	比較や分類のしかたを理解し 使っている。(2)イ)	「書くこと」において、相手や目 的を意識して、経験したことや 想像したことなどから書くこと を選び、集めた材料を比較したり 分類したりして、伝えたいこと を明確にしている。(B(1)ア)	粘り強く集めた材料を比較した り分類したりして、伝えたいこ とを明確にし、学習課題に沿って 夏休みの思い出を書こうとして いる。
漢字の組み立て	3 ◎漢字が、へんやつくりなどから 構成されていることについて 理解することができる。(知・技 (3)ウ)	漢字が、へんやつくりなどから 構成されていることについて理 解している。(3)ウ)		漢字がへんやつくりなどから構 成されていることについて粘り 強く理解し、学習課題に沿って 漢字の構成を捉えようとしてい る。
ローマ字	4 ◎日常使われている簡単な単 語について、ローマ字で表記さ れたものを読み、ローマ字で書 くことができる。(知・技(1)ウ)	日常使われている簡単な単語 について、ローマ字で表記され たものを読み、ローマ字で書い ている。(1)ウ)		進んでローマ字で表記されたも のを読み、学習課題に沿って ローマ字で書いたり入力したり しようとしている。
ちいちゃんのかげおくり	13 ◎様子や行動、気持ちや性格 を表す語句の量を増し、話や文 章の中で使い、語彙を豊かに することができる。(知・技(1) オ) ◎文章を読んで理解したことに 基 づいて、感想や考えをもつこ とができる。(思・判・表C(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や 性格、情景について、場面の移 り変わりや結び付けて具体的に 想像することができる。(思・ 判・表C(1)エ) ■物語を読み、感想をまとめ る。	様子や行動、気持ちや性格を 表す語句の量を増し、話や文 章の中で使い、語彙を豊かにし ている。(1)オ)	・「読むこと」において、登場人 物の気持ちの変化や性格、情 景について、場面の移り変わ りや結び付けて具体的に想像し ている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を 読んで理解したことに基 づいて、感想や考えをもっている。 (C(1)オ)	文章を読んで理解したことに基 づいて、進んで感想や考えをも ち、学習課題に沿って物語を読 んだ感想をまとめようとしてい る。
修飾語を使って書こう	2 ◎主語と述語との関係、修飾と 被修飾との関係について理解 することができる。(知・技(1)カ) ○言葉には性質や役割による 語句のまとまりがあることを理 解することができる。(知・技(1) オ)	・言葉には性質や役割による語 句のまとまりがあることを理解 している。(1)オ) ・主語と述語との関係、修飾と 被修飾との関係について理解 している。(1)カ)		粘り強く修飾と被修飾との関係 について理解し、学習課題に 沿って修飾語を使って文を書こう としている。
秋のくらし	2 ◎語句の量を増し、話や文章 の中で使い、語彙を豊かにする ことができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したこと などから書くことを選び、伝え たいことを明確にすることが できる。(思・判・表B(1)ア) ■秋を感じたことについて文章 に書く。	語句の量を増し、話や文章の 中で使い、語彙を豊かにしてい る。(1)オ)	「書くこと」において、経験したこ とや想像したことなどから書くこ とを選び、伝えたいことを明確 にしている。(B(1)ア)	積極的に語句の量を増し、話 や文章の中で使い、学習課題 に沿ってその季節らしさを表現 した文章を書こうとしている。
おすすめのさつを決めよう	8 ◎比較や分類のしかたを理解 し使うことができる。(知・技(2) イ) ◎目的や進め方を確認し、司 会などの役割を果たしながら話 し合い、互いの意見の共通点 や相違点に着目して、考えをま とめることができる。(思・判・表 A(1)オ) ○目的を意識して、日常生活 の中から話題を決め、集めた 材料を比較した り分類したりして、伝え合うた めに必要な事柄を選ぶことが できる。(思・判・表A(1)ア) ■グループで役割を決めて話 し合い、考えをまとめる。	比較や分類のしかたを理解し 使っている。(2)イ)	・「話すこと・聞くこと」におい て、目的を意識して、日常生活 の中から話題を決め、集めた材 料を比較したり分類したりして、 伝え合うために必要な事柄を 選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」におい て、目的や進め方を確認し、司 会などの役割を果たしながら話 し合い、互いの意見の共通点や 相違点に着目して、考えをまと めている。(A(1)オ)	粘り強く司会などの役割を果た しながら話し合い、学習の見通 しをもって考えをまとめようとし ている。

<p>すがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます</p>	<p>12</p> <p>◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つげることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。</p>	<p>・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)</p>	<p>・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つげている。(C(1)ウ)</p>	<p>目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つげたり、それらを明確にして文章の構成を考えてたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。</p>
<p>ことわざ・故事成語</p>	<p>4</p> <p>◎長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことができる。(知・技(3)イ) ○目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■ことわざの意味を調べ、ことわざ辞典を作る。</p>	<p>長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)イ)</p>	<p>「書くこと」において、目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p>	<p>積極的にことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使い、学習課題に沿ってことわざ辞典を作ろうとしている。</p>
<p>漢字の意味</p>	<p>2</p> <p>◎漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p>	<p>漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p>		<p>積極的に漢字と仮名を用いた表記を理解し、これまでの学習をいかして文や文章の中で使おうとしている。</p>
<p>短歌を楽しもう ◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)</p>	<p>1</p> <p>◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)</p>	<p>易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)</p>		<p>進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って短歌を音読したり暗唱したりしようとしている。</p>
<p>漢字の広場④</p>	<p>2</p> <p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	<p>第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p>	<p>「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)</p>	<p>積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>
<p>三年とうげ</p>	<p>6</p> <p>◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○引用のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■民話や昔話を紹介する。</p>	<p>・引用のしかたを理解し使っている。(2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)</p>	<p>・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)</p>	<p>登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。</p>
<p>わたしの町のよいところ</p>	<p>12</p> <p>◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つげることができる。(思・判・表B(1)オ) ○考えとそれを支える理由について理解することができる。(知・技(2)ア) ■町のよさを紹介する文章を書く。</p>	<p>考えとそれを支える理由について理解している。(2)ア)</p>	<p>「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つげている。(B(1)オ)</p>	<p>積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。</p>
<p>冬のくらし</p>	<p>2</p> <p>◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬を感じたことについて文章を書く。</p>	<p>語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p>	<p>経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p>	<p>積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。</p>

詩のくふうを楽しもう	4	<p>○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>■詩を創作する。</p>	文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)	<p>・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)</p>	進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。
四まいの絵を使って	2	<p>◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)</p>	段落の役割について理解している。(1)カ)	「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)	書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考慮することに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。
カンジーはかせの音訓かるた	2	◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)		進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。
漢字の広場⑤	2	<p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)	「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
ありの行列	7	<p>◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>■文章を読んで考えたことを伝え合う。</p>	<p>・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。(1)オ)</p> <p>・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ)</p>	<p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)</p>	進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
つたわる言葉で表そう	2	<p>◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■相手に伝わる文章を書く。</p>	<p>・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p>	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見直しをもって相手に伝わる文章を書こうとしている。
たから島のぼうげん	8	<p>◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■物語を創作する。</p>	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)	「書くこと」において、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	進んで様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見直しをもって物語を創作しようとしている。

お気に入りの場所、教えます	<p>8</p> <p>◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>■お気に入りの場所を発表する</p>	<p>・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ)</p> <p>・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(A(1)イ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)</p>	<p>進んで話の中心が明確になるように話の構成を考え、学習課題に沿ってお気に入りの場所を発表しようとしている。</p>
モチモチの木	<p>15</p> <p>◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>■登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。</p>	<p>様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p>	<p>・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)</p>	<p>登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に粘り強く想像し、学習課題に沿って考えたことをまとめ、伝え合うとしている。</p>
漢字の広場⑥	<p>2</p> <p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(0)エ)</p> <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	<p>・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>・修飾と被修飾との関係について理解している。(1)カ)</p>	<p>間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(0)エ)</p>	<p>積極的に第1学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>
三年生をふり返って	<p>1</p> <p>◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。</p>	<p>言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p>	<p>・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p>	<p>進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。</p>

令和6年 評価規準

教科	国語	学年	第 4 学年
----	----	----	--------

単元名	時数	単元の到達目標 (小単元のねらい)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
わたしは、た あれ	2	<p>◇自分の知りたいことを明確にして、質問をする。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア)	◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕A工)	【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、学習の見通しをもって、自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。
春のうた あり	2	<p>□◇声に出して読んだり、共通点や相違点に気をつけて話したり聞いたりすることを楽しみ、国語学習への意欲をもつ。</p> <p>□言葉の響きに気をつけながら、工夫して音読する。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。 (〔知識及び技能〕(1)ク)	◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕C工)	【態度】進んで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
一 場面の様子や、登場人物の気持ちを想像しながら読もう	10	□松井さんの行動や気持ちを考えながら読み、松井さんになって、「この日」のできごとを日記に書く。			

<p>白いぼうし</p>	<p>4</p>	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒ 知技(1)才 ◎知技(1)才 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒ 知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒ 知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒ 知技(3)才 ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒ 思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒ 思判表B(1)才 □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒ ◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒ ◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒ 思判表C(1)才 □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒ 思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒ 思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)才)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p>	<p>【態度】進んで登場人物の気持ちや性格、情景について具体的に想像し、今までの学習を生かして、登場人物になったつもりで日記を書くこととしている。</p>
<p>ぴったりの言葉、見つけよう</p>	<p>4</p>	<p>■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。 △言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒ ◎知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒ ◎知技(1)ウ △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒ 知技(1)才 ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒ ◎思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒ 思判表B(1)ウ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒ 思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p>	<p>◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p>	<p>【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見通しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。</p>

<p>漢字の広場 ① 漢字の部首</p>	<p>2</p>	<p>△漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。 (〔知識及び技能〕(3)ウ)</p>		<p>【態度】進んで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。</p>
<p>漢字の広場 ① 三年生で学んだ漢字 ①</p>	<p>2</p>	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)</p>	<p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。</p>

<p>その重さを量る</p>	<p>2</p>	<p>□象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>□段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との關係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p>	<p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)</p>	<p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)</p>
<p>花を見つける手がかり</p>	<p>10</p>	<p>□「もんしろちよは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との關係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったこと</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との關係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p>	<p>【態度】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、結果と結論のつながりを捉えようとしている。</p>

<p>分類をもとに本を見つけよう</p>	<p>4</p>	<p>△地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。 △「日本十進分類法」のしくみを知り、本を探すときに役立てる。 △「日本十進分類法」のしくみを知り、分類記号を手がかりに本を探して読む。</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ □目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ</p> <p>☆社会、理科、総合：調べ学習で本を探す</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 (〔知識及び技能〕(3)オ)</p>	<p>◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)</p>	<p>【態度】進んで比較や分類の仕方を理解し、学習の見通しをもって、分類記号を手がかりに本を探して読むようとしている。</p>
<p>メモの取り方をくふうして聞こう</p>	<p>3</p>	<p>◇相手の話の大切なことを落とさないように、工夫してメモを取りながら話を聞く。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ)</p>	<p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ)</p>	<p>【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、大切なことを落とさないように聞こうとしている。</p>

漢字辞典の引き方	2	<p>△漢字辞典の引き方を理解し、活用する。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ)</p>		<p>【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。</p>
三 伝わりやすい組み立てを考えて書こう	10	<p>■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。</p>			

<p>リーフレット で知らせよう</p>	<p>3</p>	<p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒知技(1)カ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p>	<p>◎【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p>	<p>【態度】積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。</p>
<p>短歌の世界</p>	<p>1</p>	<p>△短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。</p> <p>△易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。⇒知技(3)オ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p> <p>☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切に する。 ☆図書館活用：短歌への関心を広げる。</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p>	<p>【態度】進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。</p>

漢字の広場 ② 漢字の音を表す部分	2	<p>△形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p> <p>△漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p>	◎【知技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。 (〔知識及び技能〕(3)ウ)		【態度】進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題に沿って、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。
漢字の広場 ② 三年生で学んだ漢字 ②	2	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)	【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)	【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

<p>四 登場人物のせいかくや、気持ちを想像して読もう</p>	<p>10</p>	<p>□場面や人物の様子を想像しながら、落語を音読したり、演じたりする。</p>			
<p>そろそろ（落語）</p>		<p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (〔知識及び技能〕(1)イ)</p>	<p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p>	<p>【態度】進んで登場人物の気持ちの変化や性格、情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって、落語を音読したり演じたりしようとしている。</p>

「夏の思い出」記者になるろう	1	<p>◇話し手がどんなことを伝えたいのかを考えながら、質問をする。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア)	◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕A工)	【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、相手の話を引き出す質問をしようとしている。
五 写真などの図のよさを知り、活用しよう	11	◇写真は撮り方によって見る人に与える感じが異なることに気づき、写真や図を効果的に用いて表現する。			

<p>写真をもとに話そう</p>	<p>6</p> <p>◇伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。</p> <p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>☆特別活動（朝の会など）：メモをもとにスピーチをする。</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 （〔知識及び技能〕(1)イ）</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 （〔知識及び技能〕(2)ア）</p>	<p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ）</p> <p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ）</p>	<p>【態度】粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え、学習の見通しをもって、写真から読み取ったことを話そうとしている。</p>
<p>新聞を作ろう</p>	<p>5</p> <p>■割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に、句読点を適切に打っている。 （〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 （〔知識及び技能〕(2)ア）</p>	<p>◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）</p>	<p>【態度】粘り強く間違いを正したり文章を整えたりし、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。</p>

漢字の広場 ③ 送りがなのつ け方	2	<p>△送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p>	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)		【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字を正しく使おうとしている。
都道府県名に用いる漢字	1	<p>△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ</p>	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ)	【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)	【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、都道府県名を覚えたり書いたりしようとし

<p>漢字の広場 ③ 三年生で学んだ漢字 ③</p>	<p>2</p>	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p>	<p>【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。</p>
<p>六 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう</p>	<p>9</p>	<p>□登場人物の思いを想像しながら、二つの場面を比べて読み、読んだ感想を友達に伝える。</p>			

一つの花	<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ)</p> <p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕C工)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p>	<p>【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、心に残った場面をもとに感想文を書こうとしている。</p>
いろいろな手紙を書こう	<p>2</p> <p>■手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒◎知技(1)キ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)工</p> <p>■行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p>	<p>◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(〔知識及び技能〕(1)キ)</p>	<p>◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕B工)</p>	<p>【態度】粘り強く間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書こうとしている。</p>

修飾語	2	<p>△文の中での修飾語のはたらきを理解する。</p> <p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)才</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)力</p>	◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)力)		【態度】進んで修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、修飾語を見つけたり、修飾語の種類を見分けたりしようとしている。
七 自由に想像を広げて書こう	6	■不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。			

<p>「ショートショート」を書こう</p>	<p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p>	<p>◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p>	<p>【態度】積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。</p>
<p>「月」のつく言葉</p>	<p>△昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関する言葉を集める。 △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)</p>	<p>【態度】進んで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関係する言葉を集めようとしている。</p>

<p>四年生で学ぶこと</p> <p>一 場面のうつりかわりと結びつけ、登場人物の変化を読もう</p>	10	<p>□人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み、読書の世界を豊かにする。</p>			
<p>ごんぎつね</p>		<p>△様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒ ◎知技(1)才</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>□場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p> <p>☆道徳：物語の読みをとおして、生命の尊さを感じ取り、生命あるものについての見方を深める。</p>	<p>◎【知技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)才)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p>	<p>【態度】積極的に、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。</p>

<p>「読書発表会」をしよう</p>	<p>5</p>	<p>△紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」で発表する。 △紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」をし、読書の幅を広げる。 △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。 ⇒思判表C(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して、読書の幅を広げ合う。</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 (〔知識及び技能〕(3)オ)</p>	<p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕C力)</p>	<p>【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習の見通しをもって、「読書発表会」で本を紹介しようとしている。</p>
<p>言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ</p>	<p>4</p>	<p>△言葉や音が表すイメージや、イメージに即した言葉を考えたりすることによって、言葉の特性について考える。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア)</p>	<p>【思判表】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ)</p>	<p>【態度】進んで、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って、言葉がもつイメージについて考えようとしている。</p>

<p>二 目的や進め方をたしかめて話し合おう</p>	<p>10</p>	<p>◇司会者や発言者などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えをよく伝え合って話し合う。</p>			
<p>新スポーツを考えよう</p>		<p>△相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇グループや学級全体での話し合いなど、考えを伝え合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ ☆総合的な学習の時間・特別活動など：司会者や提案者・記録者などの役割を知り、分担して話し合いを進める。合意形成の仕方を学ぶことに生かせる。</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ)</p>	<p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕A才)</p>	<p>【態度】積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。</p>

漢字の広場 ④ いろいろな意味を表す漢字	2	<p>△一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)		【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題に沿って、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。
漢字の広場 ④ 三年生で学んだ漢字 ④	2	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)	【思判表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ)	【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
三 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう	12	ロウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列に沿って読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。			

<p>ウミガメの命をつなぐ</p>	<p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p>	<p>【態度】積極的に、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、学習の見通しをもって、本教材の紹介文を書こうとしている。</p>
<p>二つのことがらをつなぐ</p>	<p>2 △二つの事柄をつなぐとき、使う言葉によって内容が大きく変わること理解し、接続語のはたらきを意識して、正しく使い分ける。 △様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p>	<p>◎【知技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)</p>		<p>【態度】進んで接続する語句の役割について理解し、学習の見通しをもって、接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。</p>

<p>四 調べたことをわかりやすく書こう</p>	<p>6</p>	<p>■図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。</p>			
<p>「不思議ずかん」を作ろう</p>		<p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒知技(1)ウ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ)</p>	<p>◎【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ)</p>	<p>【態度】積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。</p>

<p>故事成語</p>	<p>4</p>	<p>△故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり、我が国の伝統や文化に目を向けたりする。</p>	<p>◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p>	<p>【態度】積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。</p>
<p>詩を楽しもう</p> <p>いろいろな詩 おおきな木 とびばこ だ んだん</p>	<p>2</p>	<p>□さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。</p> <p>△文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒◎知技(1)ク</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ</p> <p>□登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク)</p>	<p>◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p>	<p>【態度】進んで、詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって発表し合おうとしている。</p>

漢字の広場 ⑤ 熟語のでき方	2	<p>△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)		【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。
漢字の広場 ⑤ 三年生で学んだ漢字 ⑤	2	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)	【思判表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)	【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
五 自分の経験と結びつけて考えよう	15	◇「便利だな」と思うものを思い浮かべ、その理由から自分にとっての「便利」とはどういうことか話し合う。			

<p>身のまわりの「便利」なものを考えよう</p>	<p>1</p>	<p>◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び、使いやすくなる工夫を考えて話し合う。</p> <p>△言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア</p> <p>◇目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>◎【知技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア)</p>	<p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア)</p>	<p>【態度】進んで、目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって、クラス全体やグループで話し合おうとしている。</p>
<p>「便利」ということ</p>	<p>7</p>	<p>□「便利」とはどのようなことを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>△幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>□段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)ア</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表(2)ウ</p>	<p>◎【知技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア)</p> <p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (〔知識及び技能〕(2)イ)</p> <p>◎【知技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 (〔知識及び技能〕(3)オ)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ)</p> <p>◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)</p>	

<p>調べてわかったことを発表しよう</p>	<p>◇調べたことについて、写真や図、表やグラフなどを使って説明したり、話の中心に気をつけて聞いたりする。</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つこと。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p> <p>☆社会科・理科・総合的な学習の時間など：調べたことや観察したことをポスターを使って効果的に発表する。</p>	<p>◎【知技】比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)</p>	<p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ)</p>	<p>【態度】積極的に、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。</p>
<p>点(,)を打つところ</p>	<p>2</p> <p>△読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)</p>		<p>【態度】進んで句読点のはたらきを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で適切に使おうとしている。</p>

<p>六 伝えたいことをはっきりさせて書こう</p>	<p>9</p>	<p>■様子がわかるように、よりよい表現を選んで書く。</p>	<p>◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）</p> <p>◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）</p>	<p>◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bウ）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕B工）</p> <p>◎【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕B才）</p>	
<p>自分の成長を振り返って</p>		<p>△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に，句読点を適切に打つこと。また，第3学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。⇒◎知技(1)カ</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア</p> <p>■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア</p> <p>■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。⇒思判表B(1)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)才</p>			

雪	1	<p>△「雪」を扱った言語表現を集める。</p> <p>△考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ⇒◎知技(3)イ</p> <p>■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(〔知識及び技能〕(3)イ)	【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)	【態度】進んで、長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし、学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。
漢字の広場 ◎ 同じ読み方の漢字の使い分け	2	<p>△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。</p> <p>△漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 ⇒◎知技(1)ウ</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ</p>	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使っていると同時に、句読点を適切に打っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ)		【態度】進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し、学習課題に沿って、文や文章の中で正しく使おうとしている。

漢字の広場 ⑥ 三年生で学んだ漢字 ⑥	2	<p>△絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p> <p>△第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>△丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ⇒知技(1)キ</p> <p>■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)	【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)	【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、お話の一場面を書くようとしている。
七 場面うつり変わりと、登場人物の気持ちの変化を読もう	8	□登場人物の考え方の違いや、その移り変わりを考えながら読み、気に入った場面を物語のように書きかえる。			

<p>木竜うるし (人形げき)</p>	<p>10 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。 ⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 ⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動、気持ちの変化などについて、叙述を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基ついて、感想や考えをもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 ⇒◎思判表C(1)カ ■詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (〔知識及び技能〕(1)イ)</p>	<p>【思判表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基ついて、感想や考えをもっている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)</p>	<p>【態度】積極的に、文章を読んで理解したことに基ついて感想や考えをもち、学習の見通しをもって、脚本を物語のように書きかえようとしている。</p>
<p>国語の学習 これまで これから</p>	<p>2 ◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との關係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ◇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ■相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ◇説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ■記録や報告などの文章を読み、分かったことや考えたことを、本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 (〔知識及び技能〕(1)イ)</p>	<p>◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) ◎【思判表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との關係を明確にして、書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ)</p>	<p>【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、1年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。</p>

教科	国語	学年	第5学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のわらい)	単元のもどまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ひみつの言葉を引き出そう	1	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ) ■友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話す。	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア)	・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)エ)	進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。
かんがえるのって おもしろい	1	◎詩を音読することができる。(知・技(1)ケ) ○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■音読して、想像したことを伝え合う。	詩を音読している。((1)ケ)	「読むこと」において、詩を読んでもまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
名前を使って、自己しょうかい続けてみよう	1	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ)	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。((1)カ)	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)	積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書くようとしている。
銀色の裏地	5	◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■印象に残ったことを伝え合う。	・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことを伝え合おうとしている。
図書館を使いこなそう	1	◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■本を探して、記録カードを書く。	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。((3)オ)		進んで読書が自分の考えを広げることに関与することに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書くようとしている。
漢字の成り立ち	2	◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技(3)ウ)	漢字の由来、特質などについて理解している。((3)ウ)		進んで漢字の由来、特質などに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。

春の空	1 ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ■春らしいものや様子を文章に書く。	・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)	「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って春らしいものや様子を文章に書くようとしている。
きいて、きいて、きいてみよう	6 ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎話し言葉と書き言葉の違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ■インタビューをし、報告する。	・話し言葉と書き言葉の違いに気づいている。(1)イ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)	・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。
見立てる言葉の意味が分かること【情報】原因と結果	7 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■考えたことを伝え合う。	・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合うようとしている。
敬語	2 ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(1)キ)		進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。
日常を十七音で	3 ◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ◎俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けすることができる。(知・技(1)ウ) ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■俳句を作る。	・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けしている。(1)ウ) ・比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク)	・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ)	粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。
漢字の広場①	1 ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)	「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書くようとしている。

古典の世界(一)	2	◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ■古文を音読する。	・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3)イ)		進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。
【情報】目的に応じて引用するとき	2	◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■引用カードを書く。	情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。(2)イ)	「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	進んで目的に応じた引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書こうとしている。
みんなが使いやすいデザイン	8	◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■報告する文章を書く。	情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。(2)イ)	【「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。
同じ読み方の漢字	2	◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)		進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心をもち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。
夏の夜	1	◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏らしいものや様子を文章に書く。	・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)	「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って夏らしいものや様子を文章に書こうとしている。
作家で広げるわたしたちの読書モモ	5	◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■本の魅力を伝え合う。	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ)	「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。
かぼちゃのつるがわらは草なり	2	◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ■考えたことを伝え合う。	比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	進んで比喩や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
どちらを選びますか	2	思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ◎互いの立場や意図を明確にしながらいかに話しかけ、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ■立場に分かれて話し合う。	思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ)	「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらいかに話しかけ、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)	積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして立場に分かれて話し合おうとしている。

新聞を読もう	2	<p>◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>■新聞記事を読む。</p>	<p>文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)</p>	<p>・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア)</p> <p>・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)</p>	<p>進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。</p>
文章に説得力をもたせるには	2	<p>◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>■考えたことを伝え合う。</p>	<p>文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)</p>	<p>「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p>	<p>積極的に筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習の見直しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>
漢字の広場②	1	<p>◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。</p>	<p>第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p>	<p>「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)</p>	<p>進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。</p>
たずねびと	6	<p>◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)</p> <p>■考えたことを伝え合う。</p>	<p>比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(知・技(1)ク)</p>	<p>「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)</p>	<p>粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見直しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>
漢字の広場③	1	<p>◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。</p>	<p>共通語と方言との違いを理解している。(3)ウ)</p>		<p>進んで方言と共通語の違いに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。</p>
方言と共通語	2	<p>◎共通語と方言との違いを理解することができる。(知・技(3)ウ)</p>	<p>共通語と方言との違いを理解している。(3)ウ)</p>		<p>進んで方言と共通語の違いに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。</p>
秋の夕	1	<p>◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■秋らしいものや様子を文章に書く。</p>	<p>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)</p> <p>・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)</p>	<p>積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って秋らしいものや様子を文章に書こうとしている。</p>

<p>よりよい学校生活のために 【コラム】意見が対立したときには</p>	<p>6</p> <p>◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎互いの立場や意図を明確にしながらかつ画的に話し合い、考えを広げたりまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■身の回りの問題について、それぞれの立場から考えを伝えて話し合う。</p>	<p>・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらかつ画的に話し合い、考えを広げたりまとめる。(A(1)オ)</p>	<p>粘り強く互いの立場や意図を明確にしながらかつ、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。</p>
<p>浦島太郎——「御伽草子」より</p>	<p>1</p> <p>◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ○親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○時間の経過による言葉の変化に気づくことができる。(知・技(3)ウ) ■古典の文章を読み、知っている話と比べて思ったことを話す。</p>	<p>・親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知っている。(3)イ) ・時間の経過による言葉の変化に気づいている。(3)ウ)</p>		<p>進んで昔の人のもの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。</p>
<p>和語・漢語・外来語</p>	<p>2</p> <p>◎語句の由来などに興味をもつとともに、世代による言葉の違いに気づくことができる。(知・技(3)ウ) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p>	<p>・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・語句の由来などに興味をもつとともに、世代による言葉の違いに気づいている。(3)ウ)</p>		<p>進んで和語・漢語・外来語などの由来に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。</p>
<p>固有種が教えてくれること 自然環境を守るために 【コラム】統計資料の読み方</p>	<p>10</p> <p>◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ) ◎目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ■筆者の説明のしかたの工夫について、考えをまとめて話し合ったり、統計資料を根拠にして意見文を書いたりする。</p>	<p>・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3)オ)</p>	<p>・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)</p>	<p>粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。</p>
<p>カンジ博士の暗号解説</p>	<p>2</p> <p>◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p>	<p>第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p>		<p>進んで漢字の読み方に関心を持ち、これまでの学習をいかして漸次書こうとしている。</p>

古典の世界(二)	1	◎親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ■漢文を音読する。	・親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ)		進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って漢文を音読しようとしている。
漢字の広場④	1	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉を使って、それぞれの県についての文を書く。	第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
やなせたかし——アンパンマンの勇氣	5	◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ■伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する。	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気づいている。(3)オ)	・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	積極的に文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。
あなたは、どう考える	6	◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ) ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■意見文を書く。	・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)	積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
冬の朝	1	◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬らしいものや様子を文章に書く。	・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)	「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習の課題に沿って冬らしいものや様子を文章に書こうとしている。
好きな詩のよさを伝えよう	2	◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■詩を紹介する文章を書く。	比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
言葉でスケッチ	2	◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ■情景が伝わるように書く。	比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	粘り強く自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情景が伝わるように書こうとしている。

熟語の読み方	2	◎第5学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	第5学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ)		進んで熟語の読み方に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
漢字の広場⑤	1	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉やつながり言葉を使って、道順を案内する文を書く。	第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
想像力のスイッチを入れよう	6	◎文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■メディアとの関わりについて考えを伝え合う。	文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	積極的に文章を読んで理解したことに基ついて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしている。
複合語	2	◎語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ)		進んで複合語の構成や変化について関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
言葉を使い分けよう	3	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■手紙を書く	・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)	「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。
もう一つの物語	6	◎話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ) ■別の物語に書き換える。	話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)	粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書こうとしている。
「子ども未来科」で何をする	6	◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考慮することができる。(思・判・表A(1)イ) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■提案するスピーチを行う。	・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ) ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって提案するスピーチをしようとしている。

大造じいさんとガン	6 ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○文章を音読したり朗読したりすることができる。(知・技(1)ケ) ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語の魅力伝える文章を書く。 ■物語の魅力が表れているところを朗読する。	・比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。(1)ク) ・文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ)	・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力伝え合おうとしている
漢字の広場⑥	1 ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉を使って、出来事を報道する文を書く。	第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)	「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
五年生をふり返って	1 ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア)	「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	進んで考えたことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

令和6年 評価規準

教科	国語	学年	第 6 学年
----	----	----	--------

単元名	時数	単元の到達目標 (小単元のねらい)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
自分に質問し てみよう	2	<p>◇自分のことを客観的に捉えて話す。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア</p>	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。	「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。	積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
風景 純銀も ざいく	1	<p>□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒知技(1)ク</p> <p>△文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎知技(1)ケ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ</p>	思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 文章を音読したり朗読したりしている。	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。

あの坂をのほれば	2	<p>□言葉の意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。</p> <p>△文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ</p>	文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。	「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	進んで言葉の意味を考え、学習の見通しをもって音読しようとしている。
図に表して考えよう	3	<p>■考えや意見を図に書いてまとめる。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。	粘り強く伝えたいことを明確にしようとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。

春はあけほの	3	<p>△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>△親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒知技(3)ア</p> <p>△古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。⇒知技(3)イ</p>	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>「読むこと」において、文章を読んだりとまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</p>	進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見直しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。
薫風 「迷う」	3	<p>□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しむ。</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ</p> <p>□事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒思判表C(1)ア</p> <p>□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒思判表C(1)ウ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ</p>	文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。	<p>「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。</p> <p>「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。</p>	積極的に随筆の特徴について理解し、今までの学習を生かして、者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。

<p>随筆を書こう</p>	<p>7</p>	<p>■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 →知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →◎知技(1)オ △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →知・技能(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 →◎知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 →◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 →思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけると。 →思判表B(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 →思判表B(2)ウ ☆総合的な学習の時間など：卒業文集を作成するときに活用できる。</p>	<p>思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。</p>	<p>積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書こうとしている。</p>
<p>漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成</p>	<p>1</p>	<p>△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →◎知技(1)オ</p>	<p>思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。</p>		<p>積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心をもち調べようとしている。</p>
<p>漢字の広場 ① 五年生で学んだ漢字 ①</p>	<p>1</p>	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ</p>	<p>前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。</p>	<p>「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。</p>	<p>積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

		<p>■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考慮すること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>			
雪は新しいエネルギー	5	<p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに，送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにすること。また，語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>■筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考慮すること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>□事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒◎思判表C(1)ア</p> <p>□目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基いて，自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p> <p>□説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p>	情報と情報との関係付けの仕方，語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	<p>「書くこと」において，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりしているなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「読むこと」において，事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。</p>	積極的に雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係，残された課題などを検討し，今までの学習を生かして，筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめようとしている。
主語と述語の対応をみる	2	<p>△主語と述語の対応を確認して，文のねじれに気づき，正しく直す。</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ</p>	文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解している。		積極的に主語と述語の対応について理解し，今までの学習を生かして，文のねじれに気づき，正しく直そうとしている。

<p>地域の防災について話し合おう</p>	<p>6</p> <p>◇意見の違いを大事にしなが話し合い、考えを深める。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒知技(1)キ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考慮すること。 ⇒思判表A(1)イ</p> <p>◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒◎思判表A(1)オ</p>	<p>思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。</p>	<p>粘り強く意見の違いを大事にしなが話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。</p>
<p>パンフレットで知らせよう</p>	<p>7</p> <p>■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮すること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p>	<p>情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。</p>	<p>「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。</p> <p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。</p>	<p>積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。</p>
<p>雨</p>	<p>1</p> <p>△「雨」を扱った言語表現を集める。</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ</p>	<p>語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。</p>	<p>粘り強く「雨」を扱った言語表現を集め、学習の見通しをもって「言葉ノート」を作ろうとしている。</p>

世代による言葉のちがい	1	<p>△世代による言葉遣いの違いについて理解し、相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒思判表A(1)オ</p> <p>◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表A(2)イ</p>	語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。	積極的に世代による言葉遣いの違いについて理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じて適切な言葉を選んで使おうとしている。
漢字の広場② 複数の意味をもつ漢字	1	<p>△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p>	語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。
漢字の広場② 五年生で学んだ漢字 ②	1	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

<p>川とノリオ</p>	<p>10</p>	<p>△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 →◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 →◎知技(1)ケ △文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 →思判表A(1)ア ◇互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 →思判表A(1)オ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 →◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 →◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基ついで、自分の考えをまとめること。 →思判表C(1)◎オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →思判表C(1)◎カ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 →思判表A(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ</p>	<p>比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 文章を音読している。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基ついで、自分の考えをまとめている。 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</p>	<p>進んで優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、学習の見通しをもって優れた表現についての感想を話し合おうとしている。</p>
<p>教えて！あなたの「とっておき」</p>	<p>2</p>	<p>◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 →◎知技(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 →思判表A(1)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 →◎思判表A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。 →思判表A(2)イ</p>	<p>言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。</p>	<p>積極的に話し手の意図を考慮し、今までの学習を生かして自分の意見と比べて考えをまとめようとしている。</p>

詩を味わおう イナゴ	1	<p>□言葉の広がりを楽しみながら、詩の世界を楽しむ。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →◎知技(1)オ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 →◎思判表C(1)イ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 →思判表C(1)オ</p> <p>□詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ</p>	<p>思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っていると、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。</p>	<p>「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。</p>	<p>積極的に言葉の広がりを楽しみ、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。</p>
「知恵の言葉」を集めよう	1	<p>△生活の中で使われている知恵の言葉に気がつき、言葉の使い方への理解を深める。</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →◎知技(1)オ</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 →◎知技(2)ア</p> <p>△情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →知技(2)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア</p>	<p>思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。原因と結果など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。</p>	<p>進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」をつくろうとしている。</p>
物語を作ろう	5	<p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →◎知技(1)カ</p> <p>△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 →知技(1)ク</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 →◎思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 →◎思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →思判表B(1)カ</p>	<p>文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。</p>	<p>「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。</p>	<p>積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題に沿って写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。</p>

<p>会話を広げる</p>	<p>3</p>	<p>△ 相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、相手との言葉の掛け合いの工夫を考える。</p> <p>△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながらい画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ</p>	<p>言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。</p>	<p>「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。</p>	<p>積極的に相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、学習課題に沿って相手との言葉の掛け合いの工夫を考えようとしている。</p>
<p>漢字の広場 ③ 熟語の使い分け</p>	<p>1</p>	<p>△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p>	<p>思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。</p>		<p>積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。</p>
<p>漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字 ③</p>	<p>1</p>	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p> <p>■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア</p>	<p>前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。</p>	<p>「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。</p>	<p>積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

<p>あなたはどうか感じる？</p>	<p>1</p>	<p>□友達と自分の感じ方の違いについて考える。</p> <p>△原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)才</p>	<p>情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p>	<p>進んで文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習課題に沿って友達と自分の感じ方の違いについて考えようとしている。</p>
<p>ほくの世界、君の世界</p>	<p>8</p>	<p>□筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、「心の世界」について考える。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)才 □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア</p> <p>☆道徳：自分と他の人には、その人なりの「心の世界」があることを知り、相手の立場に立ち、自分と異なる意見や立場を大切にすることを育む。</p>	<p>原因と結果など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p>	<p>進んで筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、自分の経験をふりかえりながら「心の世界」について考えようとしている。</p>

<p>「うれしさ」って何？ ——哲学対話をしよう</p>	<p>4</p>	<p>◇お互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、共通点や相違点をもとに分類する。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒思判表A(1)オ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>原因と結果など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p>	<p>積極的にお互いの考えや意見を関連づけて述べ合い、今までの学習を生かして共通点や相違点をもとに分類しようとしている。</p>
<p>言葉は時代とともに</p>	<p>5</p>	<p>△言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを知り、自分の考えをまとめる。 △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知ること。 ⇒知技(3)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：時代とともに変化していく言葉について興味をもって調べたり、わが国の伝統や文化への関心を高めたりする。</p>	<p>古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のもの見方や感じ方を知っている。</p>	<p>「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。</p>	<p>積極的に言葉がその時代の人々とともに変化してきたことを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。</p>

<p>自分の考えを発信しよう</p>	<p>6</p>	<p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 →知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →◎知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →忠判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 →忠判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →◎忠判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →◎忠判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 →◎忠判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →◎忠判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →忠判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：文章を書く活動でも活用できる。</p>	<p>文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。</p>	<p>積極的に情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、学習課題に沿って理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書こうとしている。</p>
<p>漢字の広場 ④ 音を表す部分</p>	<p>1</p>	<p>△形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 →◎知技(3)ウ</p>	<p>語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。</p>		<p>積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解しようとしている。</p>

漢字の広場 ④ 五年生で学んだ漢字 ④	1	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →思判表B(1)カ</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 →思判表B(2)ウ</p>	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
ぎつねの窓	12	<p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →◎知技(1)オ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ</p> <p>□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 →思判表C(1)イ</p> <p>□人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 →◎思判表C(1)エ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 →◎思判表C(1)オ</p> <p>□文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →思判表C(1)カ</p>	思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っていると、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	進んで登場人物の心情の変化を考え、学習の見通しをもって想像したことを書こうとしている。
書評を書いて話し合おう	6	<p>△これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合う。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 →◎知技(1)イ</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ</p> <p>△文の中で語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →知技(1)カ</p>	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関わっていることに気付いている。	「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。	進んで書き表し方に着目して文を整え、これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合おうとしている。

		<p>△日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。 ⇒ ◎知技(3)オ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒ 思判表A(1)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒ ◎思判表A(1)イ</p> <p>◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒ ◎思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒ 思判表A(1)エ</p>		<p>表現を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p>	
敬意を表す言い方	2	<p>△話す相手や場面に応じて、敬意を表す言い方を適切に使い分ける。</p> <p>△日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒ ◎知技(1)キ</p>	<p>日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。</p>	<p>積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って敬意を表す言い方を適切に使い分けようとしている。</p>	
言葉と私たち	2	<p>言葉に対する自分の考えを書き、言葉への関心を持つ。</p> <p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒ 知技(1)イ</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒ 知技(1)ウ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒ 思判表A(1)ア</p> <p>◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒ 思判表A(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒ 思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒ 思判表B(1)ウ</p> <p>□目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒ ◎思判表C(1)ウ</p> <p>□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒ 思判表C(1)オ</p> <p>□説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒ 思判表C(2)ア</p> <p>□学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。 ⇒ 思判表C(2)ウ</p>	<p>話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。</p> <p>「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。</p>	<p>粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって言葉に対する自分の考えを書こうとしている。</p>

漢字の広場 ⑤ 同じ訓をもつ 漢字	1	<p>△異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分ける。</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒知技(3)ウ</p>	思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。		積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分けようとしている。
漢字の広場 ⑤ 五年生で学んだ漢字⑤	1	<p>△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ</p>	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

		<p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ</p>			
伊能忠敬	11	<p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ</p>	文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p> <p>「読むこと」において、文章を讀ん</p>	積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って伊能忠敬の生き方を考えたあと、興味のある人物の伝記を讀んで、その人物を紹介しようとしている。
日本語の文字	3	<p>△日本語の文字の由来や特徴に関心を持ち、適切に使い分けられることができる。</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いにも注意して書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア</p>	語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。	<p>「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。</p>	積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し、今までの学習を生かして適切に使い分けようとしている。

<p>漢字の広場 ⑥ さまざまな読み方</p>	<p>1</p>	<p>△同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもつ。</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ</p> <p>△語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ</p>	<p>思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っていると、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。</p>		<p>積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもつとしている。</p>
<p>ひろがる言葉</p>	<p>9</p>	<p>△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒◎知技(1)イ</p> <p>△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ</p> <p>△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ</p> <p>△文の中で語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア</p> <p>◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ</p> <p>◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)エ</p> <p>◇互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒◎思判表A(1)オ</p> <p>■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア</p> <p>■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ</p> <p>■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ</p> <p>■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒思判表B(1)オ</p> <p>■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)カ</p> <p>◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(2)ア</p> <p>■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ</p>	<p>話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。</p> <p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p>「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。</p>	<p>積極的に卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り、成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望を持つようとしている。</p>